

ICT第3回セッション 授業案その1:「合作100文字作文」

狙い	普通グループ活動では誰かがまとめることを求められるし、指導する側もまとめることを要求する。しかし、まとめていく過程で個人の考えや個性が失われがちであることも事実である。この活動では、グループでの作業中あえて相談させないことで、言語コミュニケーションの重要性に気づかせると同時に、グループの中の個人を活かすにはどうすればいいかを考えるきっかけにしたいと考える。特に、まとめ2の方を強調して指導して欲しい。
----	---

必要なもの	グループ分けのくじ、原稿用紙(グループ数の分)、タイマー
-------	------------------------------

時間	内容	詳細・注意点
0 ~	セッション開始 グループ分け (4人1グループ) 座席移動	最初生徒には学校ごとに座ってもらう くじ引きで本日のグループ決定 くじの数は参加人数次第 4人に満たないグループには先生に入ってもらい グループごとに縦に並ぶように座ってもらう(相談しにくい形に)
10 ~	ルール説明	4人1グループでテーマに沿った100文字以上の文章を作ってもらおう ・制限時間は45分(大人でも短く感じるようです) ・1人が1回に書ける文字はひらがな1文字のみ (濁点、撥音などは自由) ・漢字、カタカナ、数字は不可 ・1文字書いたら後ろの人に原稿用紙を回す ・句読点は1文字としてカウント、書いたら次の人に渡す ・最後の人は書いたら最初の人に原稿用紙を渡す 車椅子の生徒は列の真ん中に座ってもらった方がいいでしょう。 ・一度書いた文字の訂正は認めない ・セッション中の相談禁止、ジェスチャーもダメ 「え～」とか「むずい…」くらいは見逃しましょう。 じゃないと静寂の中で全てが進んでしまう可能性が... ・文章は最終的に100文字以上になるように ・原稿が最初に回ってきた時に、署名欄に名前を記入 ・最後に「。」を書いた人に発表してもらいます グループに入っていない先生方にもやっていただきます。 テーマ:「仕事に行く前の泥棒の親分が、子分に話すこと」
20 ~	テーマ決定	列の先頭に座った人がじゃんけん ・勝った人から原稿用紙を選ぶ (原稿用紙にテーマは印刷済) あとで確認するため、原稿用紙の裏にルールをまとめておきます。 テーマが決まったら、HRTは全体に紹介してあげてください。
25 ~	スタート	先頭から1文字ずつ書いていく ・HRTはヒントになるような言動がないかチェックする ・質問がある場合は静かに挙手させる ・制限時間内にできたグループは静かに待つ ・制限時間に間に合わなかった場合は、その時点で発表してもらう (時間的に余裕があれば延長しても可) どうしても進まない生徒はHRTがリラックスさせてあげてください。 まじめに考えても時間がかかるだけで予想通りにはいきません。 『正直な話、ここでは「きれいな文章」を作るのが目的ではありません。 「会話することの重要性」や「一期一会の価値」といったところがわかってもらえればいいので、 多少日本語としておかしくても許容範囲としてあげてください』
70 ~	結果発表	最後に「。」を書いた人に読み上げてもらう ・発表しなかった生徒の感想を聞く ・HRTは適宜つつこんであげてください(特に後ろの先生の合作文には) ・周りの先生にもコメントを求めましょう
85 ~	まとめ	1. 「グループで作業するときに、言語コミュニケーションはとても重要」 2. 「話し合ってみると、メンバーの個性を失ってないか？」 『このセッションで誕生した文章は一期一会。 同じメンバーで、同じテーマでもう一度やっても違うものができるでしょう。 次はこのグループで相談しながら作業しますが、 誰かの意見に統一するのではなく、 メンバーの個性を活かすまとめ方を考えてください』

合作100文字作文のコツ

1. 最初の文字(1文字目、句読点の直後)は難しい。
2. 2文字目もけっこう難しい。
3. 助詞の使い方が難しい。
4. 文章の終わりどころが難しい(ダラダラ続いてしまう)。
5. 文章ではなく単語を作るつもりで書くとつながりやすい。

生徒には言いませんが、指導者側はこころを頭に入れておくといいかもしれません。事前にやってみることをおすすめします。

90分で終了予定

参考文献	美濃一郎(1995)『若手を伸ばす研修ゲーム』日本経団連出版
------	--------------------------------